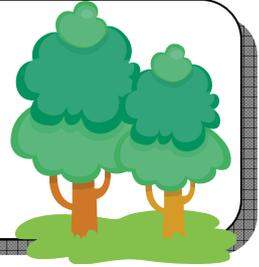


ねっどわーく



22. 5. 7 No.2

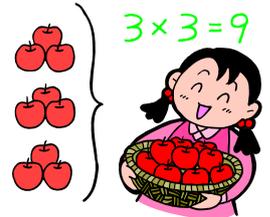
今年度の研究について、先日の研究全体会ではたくさんのご意見ありがとうございました。今年度の研究を推進していく上での大事な「共通理解」がほんのすこしでも得られたことで、大変価値ある時間でした。今後は、実際の授業を通して、さらに研究が深まればと思っています。

以下、話し合われたことをまとめてみました。言葉のとらえ方等で違うニュアンスもあるかと思いますが、それは、またの機会ということで(*_*)

■先行学習（予習）について

昨年度と同様、あまり深いにはせず、

- ①事前に教科書を読んでくる。②穴埋めなどやってみる。
- ③意図的に、予習としての宿題を課すなどする。あたりで、良いのではないか。
完璧にわかるまで予習をやるのではなくて、わからないところがある、くらいで。



■「たしかめる段階」について

- ◎何を 教師が教えたことを (=「しる」段階のことを)
予習してきてあやふやだったことを (=「先行学習から、しる段階」のことを)
 - ◎だれが 子ども自身が 教師から教わったことを
教師が 子どもの理解度を (指導と評価の一体化につながる)
 - ◎どんな方法で
ミニ問題で、子どもが ためしてみる
ペアの友達に、子どもが 説明してみる
説明させる際、解決のやり方を説明させる、内容それ自体を説明させる
完璧に説明できる なんとなくできる できる など教師が 拳手法などで
- ・たしかめる段階の理解度はどの程度で？

学級の大半が、理解の度合いがあやふやでは、次の理解深化問題にいけませんが、完璧にわかるまでとすると、授業自体が苦しくなる。そういった、ステージ型というよりは、スパイラル型で、理解深化問題を通してわかる段階までに行ければよいのでは。

■今年度の研究全般について

学習のスタートが「しる」段階からなのか？ 「前時からの続き」の段階からなのか？

→すべての単元で、1時間1時間が必ず4段階のステップを踏むわけではない。よって、単元構成や教師の意図により、臨機応変に、教師のねらいを明確にした授業で。

ただし、どちらの場合も、習ったこと（学習したこと）の理解度チェックをかけることが大事。

「やってみたい」という子の陰に「どうしていいかわからない子」も必ず存在する。

裏に、今年の授業研の日程を記しておきました。計画訪問、自主公開研、授業改善プロジェクトと目白押しですが、どうせやるなら、楽しく実になるものにしていきましょう。